令和４年度第３回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和４年８月26日（金）10時00分～12時00分

〇場　　所：大阪府咲州庁舎23階　中会議室

〇出席委員：清水会長、玉置委員（リモート）、南雲委員、三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所　ほか

Ⅰ　開会

Ⅱ　議題

**○議題　大阪府日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョンの策定について**

**・新たなビジョンの答申案（たたき台）概要について**

（事務局より新たなビジョンの答申案（たたき台）概要について説明）

（玉置委員）これまでの審議会の意見を踏まえて、ブラッシュアップしていると思う。

特に、存在意義の箇所で、1970年万博について明記した点が良い。2025年万博を機に、1970年万博の意義や意味は改めて注目されており、レガシーを今に活かすという気持ちが府民にも沸いていると思われる。そのため、新たな将来ビジョンをそれをはっきりと打ち出すことはよいことである。

目標や基本方針の中に、交流や交歓など1970年万博の重要なワードが入れられているのも個人的に嬉しいところ。目標に関しては、現行の将来ビジョンと比較すると、４つが３つにしぼられ、基本方針に関しては７つが３つに絞られている。現行のビジョンは杓子定規に項目を並べているように見えるが、新たな将来ビジョンでは思い切って絞り込まれていて良いと思う。

状況の変化と求められる対応の中で、「ＤＸの推進」とある。「攻めのＤＸ」とは、「観光ＤＸ」「新しい観光」など観光庁が強調している。

観光という言葉は、アクションプランに入れても良いが、新たなビジョンの中に、万博公園を活かしながら、日本の成長分野である観光を試していく意識を持つということを入れてもらえると良いと思う。さらに、新しいアリーナを含めて、エリア全体でスマートシティを展開する実験エリアにするような壮大な気持ちがあっても良い。ビジョン全体のバランスを考えながら様々なところで反映されると良い。

（事務局）存在意義の設定や1970年万博のキーワードを入れたことについて、前回までの審議会において、現行の将来ビジョンは、基本テーマや基本理念、目指すべき公園像がないとどこの公園のビジョンかわからないという意見があり、それを踏まえて整理した。

また、ＤＸは様々な内容が盛り込まれており、全体に関わるものであると考えている。観光については、「世界第一級の文化・観光拠点」を目指すことを明記している。

（山田委員）状況の変化について、「インバウンド需要による急激な観光客増加や、新型コロナウイルスの影響による急激な公園利用者減少」など、劇的な変化によりビジョンを見直すといったストーリーの方がわかりやすいのではないか。インバウンドだけではコロナ以前の話になってしまうので、明確にタイトルとして打ち出してはどうか。

目標③において、「アジアを代表する」とあるが、なぜアジアなのか。

また、基本方針①で「安定的に運営できる」という文言は、行政側・運営側の目線であり違和感がある。

（事務局）1点目、２点目について、ご意見を踏まえて再度検討する。

３点目、「安定的に運営できる」という文言について、万博公園が将来に向けて継続して運営するためには財政管理の観点も必要であるという認識により入れたものであるが、再度検討する。

（三木委員）今まで話し合った内容をきれいにまとめた力作であると思う。

観光産業として万博公園をどう位置付けるかという視点はこれまであまり議論できていなかった。万博は、産業技術の祭典という文脈がある。観光が日本の産業の中心となってきた時に、万博公園をどう位置付けるかという視点は必要かもしれない。今まで日本の産業において主流ではなかったエンターテインメントやスポーツ、アート等、新しい産業に意識を向けることも必要である。

また、南海トラフ地震など、日本が今後災害社会になることは確実なため、外国人旅行者の避難所になるなど、安全性を担保する場であるという位置づけができると良いと思う。

（事務局）万博公園には他の公園にはない歴史・背景などのユニークな特徴があると考えており、そこを打ち出していく必要があると考えている。

また、公園の北東部に広域防災拠点があり、災害時の体制づくりは進めている。答申に盛り込むことについては改めて検討したい。

（南雲委員）府民向けに周知するには若干難しい内容ではないか。行政関係者が理解するには良い。

インバウンド事業などは観光産業の取組みとして示しても良いと思うが、ＤＸについて、府民が読むにはわかりにくいように思う。

基本方針を３つに絞ったことで、より漠然とした内容になっているように感じる。「安定的に運営できる公園」とあるが、財務体制の確立等について方針に書くのであれば、はっきりと書いた方が良いと思った。「次世代のライフスタイル」だけでは分かりにくいので、「健康づくり」などの具体的なワードが入っていたほうが良いのではないか。

計画年度にリニア中央新幹線開業が入っているが、どのような意図か。

（事務局）ＤＸについては、注釈を入れるなど表現をわかりやすくし、府民にも伝わるような書き方を考える。

これまでの審議会における議論の中で、今回の将来ビジョンにおいては、1970年万博の歴史を踏まえつつ、より良い公園の未来に向けて、どうするかを打ち出すことが必要であるとの考えが示された。そのため、存在意義などを整理した。

計画年度を2040年としているのはリニア中央新幹線全線開業の予定も見据えて設定している。リニア中央新幹線全線開業によりさらに多くの人の来訪が予想されるということが趣旨である。

（清水委員）インバウンドが出てきているが、ドメスティックな観光客や地域の支援・サポートについても記載があると良い。目標2において「よりよい未来」という文言があるが、「より豊かな」や「より創造的な」といった表現にしてはどうか。

細かい指摘になるが、資料3の新たな将来ビジョンに盛り込むべき視点に「安全安心」とあるが、資料2の19ページでは「安心安全」となっている。

また、資料3の18ページに「ナチュラルゾーン」とある。「ネイチャーゾーン」などの表現の方が個人的にはしっくりくるが、山田委員の意見を伺いたい。

（山田委員）自然環境であれば、ネイチャーのほうが自然な表現に思う。

（事務局）ネイチャー、ナチュラルどちらも使われているが、より自然を探索していく際にはネイチャー、ナチュラルは自然の佇まいを表現する際に用いられているように感じる。事務局で検討する。

（清水委員）欠席されている委員のコメントを紹介していただきたい。

（事務局より阿多委員・田島委員のコメントについて紹介）

（玉置委員）補足になるが、観光ＤＸの中身は大切だと思う。観光ＤＸ、新しい観光というのは、集客数だけでなく、観光の質や中身そのものを改革していく部分が大きい。

個人旅行もグローバルな視点で見ると、アドベンチャーツーリズムなど、新しく、挑戦的な観光をしている人が世界的に増えている。そこから新しいカルチャーが生まれている。新しい観光の開発によって、このエリアでこれまでにない経験ができることで、普通とは違う体験にお金を支払う。結果的に客単価が上がり富裕層観光につながる。観光ＤＸは観光のイノベーションが重要である。イノベーションすることで、クリエイティブな取組み、万博記念公園の可能性を出すことにつながると思う。これから、そういう発想や発明が、観光の切り口だけでなく万博公園で出来れば良い。

万博公園は、岡本太郎の思想など文化的なものを多く包含しているため、文化観光という視点も含めて、観光ＤＸ、新しい観光が考えられると思う。

（清水委員）万博公園で新しい観光を生み出せるとよい。面白い視点である。

（山田委員）現行の将来ビジョンの数値目標として、自然文化園の入園者数300万人というのがあるが、自然文化園だけでなくスポーツレクリエーションゾーンの利用者数などを数値でとらえられると、全体としての活性化を表現できる。

また、入場者数は単純でよいが、アンケート等で利用者満足度などを図ることも将来的に活用してはどうか。

（事務局）玉木委員からいただいた文化観光という視点については、我々になかったものである。

山田委員からご指摘いただいた目標設定については、自然文化園に限らずエリア全体で見る必要があると考えており、スポーツレクリエーション施設の利用者数等も大きな観点である。アンケートについては指定管理者で年2回アンケートを実施している。今あるものでどういうことが図れるのか、指定管理者と調整したうえで検討したい。

（三木委員）3つの基本方針で整理していることを図式化すると、「進歩と調和」について調和・多様性は横軸で、縦軸は未来となる。最終的には未来に向かうので、未来に向けての軸として「未来を創造する」「次世代のライフスタイル」というものが置かれている。ただし、1970年万博のレガシーという遺産があり、その精神を継承する必要があるため、未来に向かってきた歴史として過去も書かれている。それが万博公園の存在意義であって、未来の公園の一つのモデルにしていくことが重要であると伝われば良い。細かいことはいろいろと変わっていくので、大きな骨格ができていればいいのではないかと個人的には思う。

観光に関して、1970年万博当時は団体旅行のピークであったが、個人旅行や海外旅行など観光という概念の変革期であった。コロナ以降、今までの観光に加え、デジタル化によって新しい観光概念が生まれている。観光に関して、万博公園でも新しいことが生まれる場であったほうが良いと思う。

知らない人も多いので、レガシーを含めて広報し、活性化していくべきである。レガシーを外からアクセスできるようにしたり、レガシーを活用したアートフェスティバルなども行うと良い。

万博は一つの世界地図でもある。世界から来た人達がどこから来たのか、どのように来たのか傾向が分かって、新たな創造に繋がれば面白いと思う。

（事務局）デジタル観光についてもご意見をいただいた。レガシーに関する事業についてもアクションプランで整理したい。

日常的に使われる利用者に対しては、資料3の19ページの中で「日々の生活に寄り添う普段使いの公園を目指す」とともに「非日常を楽しむための場所づくり」を行うこととしている。地域の方のニーズも聞きながら、普段からも使いやすく、かつ非日常としても使いやすい公園を意識している。

Ⅲ　閉会

（次回審議会予定について、事務局から連絡）

以上